



感謝状を手にする桑田さん(左)。後ろは寄贈いただいた除草機械

坂口谷川の環境美化に尽力

■市から感謝状贈呈、市と地元で除草機械を寄贈

長年にわたり、坂口谷川の環境美化に尽力いただいた桑田雅史さん(細江区)に7月12日、市から感謝状を贈呈しました。

桑田さんは平成7年から25年間、毎日のように川岸などの除草作業を続けられたほか、私費を投じて芝生や花を植え付けを行うなど、地域イベントなどに活用される交流の場を整備されました。

今回、一線を退くに当たり、今後も活動が継続されることを願い、市と地元に対し除草機械(30万円相当)を各1台寄贈していただきました。

静岡牧之原茶で医療機関を応援

■冷茶を飲んで医療を応援キャンペーン

市茶業振興協議会が、医療機関の支援を目的とした冷茶の販売キャンペーンを8月10日から12日の3日間、東名高速道路下り線の牧之原サービスエリアで実施しました。

売り上げの一部を医療機関に寄付することを知らせる協賛シールを貼ったプラスチックカップで冷茶を100円で販売。多くのサービスエリア利用者が購入し、3日間で270杯を売り上げました。

購入した人は「小さなことだけど、協力できれば」と話し、静岡牧之原茶を堪能しました。



医療機関を応援する趣旨に賛同し牧之原茶を味わう利用者

ぼくらの住むまちをきれいに

■市内の野球スポーツ少年団がごみ拾い活動

地頭方ジュニアZ野球スポーツ少年団の団員や保護者など28人が7月12日、国道150号バイパス沿いのごみ拾い活動を行いました。

この活動は、団員に広く周りに目を向け、人が嫌がることも率先して行動に移せる人間になってもらいたいとの思いから年2回実施。今回は、約2時間でごみ袋17袋分のごみを拾いました。

キャプテンの大窪幸粋くん(地頭方小6年)は「たくさんごみを拾って、少しはきれいになったと思う。気持ちが良かった」と話しました。



道路に捨てられたごみを分別しながら拾う団員



杉本市長(左)から感謝とねぎらいの言葉を聞くライフセーバーら

市内海岸利用者の安全を確保

■ライフセーバー監視業務終了式

コロナ禍により海水浴場を開設しなかった静波・相良両海岸での監視業務最終日の8月31日、ライフセーバーの業務終了式が静波海岸で開催されました。

例年の半数程度の配置となったライフセーバーは、波打ち際で遊ぶ利用者などに「遊泳危険」の呼びかけなどを実施。その結果、今夏も市内海岸での死亡事故ゼロを達成するなど、利用者の安全が確保されたことから、杉本市長が感謝とねぎらいの言葉を伝えました。



お披露目されたミルキーウェイクエアで買い物などを楽しむ来場者

地域のにぎわい創出拠点に期待

■ミルキーウェイクエアお披露目会

ホームセンターの空き店舗を活用して整備が進む官民複合施設「ミルキーウェイクエア」のお披露目会が8月2日に開かれ、整備状況や完成イメージが公開されました。

広さは約2400平方メートルで、民間部分にはカフェや物販店、レンタサイクルなどが入る予定。公共部分には、約4万冊の収蔵能力がある図書交流施設が整備される予定です。

お披露目会には、関係者や多くの地域住民が訪れ、既にオープンしているボルダリングジムや、オープンスペースに出店したクラフト雑貨などの買い物を楽しみ、来年4月の本格オープンを前に、地域のにぎわいの核となる施設への期待を膨らませました。

広報担当がどこにでも取材に行きます。
あなたの身近にあるホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。

情報交流課 ☎0040 ✉seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp

ズームイン!
カシャ!!



ぼくたち「い〜ら」探検隊!

■舞台のウラガワ探検隊!バックヤードツアー

市内の小学3・4年生を対象にした「舞台のウラガワ探検隊!バックヤードツアー」が8月10日にい〜らで行われました。

ツアーに参加した16人の児童は、探検隊の隊長役を務めた石野新也さんと影山円香さん(株式会社エスピーエスタくみ)の案内で、普段は見ることのできないい〜らの舞台裏や照明ブリッジ、調整室などといった場所を探検しました。

参加した児童は「高くて怖かったけど、照明の切り替え体験もできて楽しかった」と話しました。



照明ブリッジの上からステージをのぞき込む児童



三浦さん(右)の指導のもとコケテラリウム体験をする来場者

癒されるコケの世界へようこそ

■県内唯一のコケ農家・三浦さんのコケ個展

2017年に秋田県から本市に移住し、静岡県初の「コケ栽培認定新規就農者」となった三浦隆平さんの「コケ個展」が、8月8日から26日までギャラリー相良(波津区)で開かれました。

コケ庭が広がる会場には、作品展示・販売の他、コケのテラリウム体験などもあり、多くの来場者がコケに癒されました。

三浦さんは「ただ生産をして出荷するだけではなく、コケを通じて多くの人と触れ合いながら、魅力を伝えていきたい」と話しました。